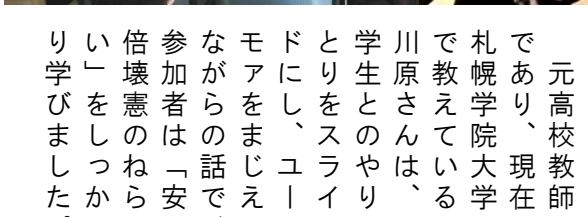


民報 ゆうばり 安倍「壊憲」を許さない！ なぜ、今9条を変えるのか？

「安倍改憲を許さない！学習交流のつどい」に130名以上が参加！



10月20日(土)岩見沢市民会館で、「安倍改憲を許さない！学習交流のつどい」が開催されました。オープニングは、Gブラザーズ&シスターズが、「沖繩・いまこそ立ち上がる」の歌を参加者で歌って、会場を盛り上げました。

南空知憲法共同センターはじめ、20を超える団体に実行委員会が組織され、臨時国会開会直前のこの日、市民と野党の共闘を推し進める学習交流のつどいは、120名の定員を超え、立ち見も出て参加者であふれました。まず最初に、実行委員会を代表して、ト部喜雄さん(岩見沢9条の会)が「市民と野党が力を合わせ、安倍9条改憲を阻止しましょう」と呼びかけました。次に、立憲民主

党・衆議院議員の神谷ひろしさん、日本共産党の前衆議院議員島山和也さん、社会民主党北海道連合代表の熊谷吉正さんからのメッセージが紹介されました。

講演では、「戦争をさせない市民の風」共同代表の川原茂雄さんが「安倍壊憲を許さない！なぜ今9条を変えるのか？」の演題で、約70分話をしました。

川原さんは、3千人署名やモリカケ、



公文書改ざん、防衛庁日報隠しの不祥事を野党が追及し、沖縄県知事選挙での、安倍壊憲スケジュールは狂ってきたことを指摘し、「来年の参議院選挙は市民と野党の共闘で、改憲勢力を過半数割れまで追い込もう」と呼びかけました。

参加者から講師への質問もあり、南空知憲法共同センターの取り組みの報告、1市4町の会の取り組み、岩見沢新婦人の取り組み、若者を中心とした「憲法カフェ」の取り組みなどが報告された。2時間30分にわたる学習交流のつどいは、終了しました。

積極的平和国家 コスタリカに学ぶ

2018年10月26日(金)1時半～ 日本キリスト教会夕張教会

教材：DVD(50分) 『コスタリカの軌跡～積極的平和国家のつくり方～』

講師：内田暁風 共同代表

ゆうばり女性9条の会 明日の平和をつくりだす夕張の会

軍備を廃止したコスタリカに学ぶ



挨拶に立つ内田暁風共同代表

10月26日、日本キリスト教会夕張協会において、「明日の平和をつくりだす夕張の会」と「ゆうばり女性9条の会」が共催で、一積極的平和国家のつくり方「コスタリカの軌跡」を教材にした学習会を開催し、15人ほどが参加しました。

コスタリカは、中米の国で1948年に常備軍を廃止し、翌年には憲法にも規定しました。

コスタリカの政府関係者は、「軍事力に国家予算をつけたとしても、大国の軍事力に対抗できない、それなら教育や福祉などに予算を回し国民の暮らしを、豊かにしたい」と話しました。

日本でも「日本国憲法を守り、生かす政府なら、実現可能なこと」である、という思いをつよくしました。(投稿者TA)

「後援会のつどい」 3か所目は、紅葉山で

10月13日(土)、紅葉山・新生クラブで、3か所目の後援会のつどいがあり開催されました。前半は、ニコニコ動画・松元ヒロと小池書記局長のお笑い対談DVDを参加者で視聴しました。後半は、くまがい桂子夕張市議から「財政破綻から12年目の夕張」について、話を聞きました。参加者から、いろいろな感想が述べられ「夕張は、本当に住むのに適した場所だね」との話し、みなさん同意見でした。「現在、夕張では、

「現在、夕張では、薬木のキハダとホウノキを植林しています」との、くまがい市議の言葉に、「夕張は、かつて営林署が2つあって、いい木がいっぱいあったんですよ」と、かつて営林署勤務の参加者が、市の9割を占める森林の活用を活用



11名の参加でしたが、その分いろいろな話を交流しあうことができ、楽しいつどいでした。

そこで福沢は、井上に朝鮮で新聞の発行を指示します。福沢は「朝鮮で近代化が遅れているのは、朝鮮人の意識が低いからだ、それは字を知らないからだ。そのため新聞を発行しなければならぬ」と主張します。

日本政府、朝鮮の政変に干渉

その頃の朝鮮は、重税と悪政に苦しむ農民の間での抗議行動が活発化し、政治も乱れて混乱していました。牛沢、高橋の両名は早々に帰国しますが、井上だけが残ります。一八八四年十二月、のちの韓国併合の契機となったという甲申事変が起こります。

結果、日本が参画したこのクーデターは失敗に終わり、日本公使竹添進一郎は在留邦人と共に命からがら首都を脱出し、日本に逃れます。このとき井上はアメリカに逃れています。

井上角五郎、政変関与のことで逮捕・有罪

一八八八年(明治21)帰国した井上は、甲申政変に関与したかどで逮捕されます。結局有罪判決の後、一八八九年二月憲法発布の大赦によって出獄しています。

このように、日本は早くから朝鮮に干渉していたのです。

くずさんの 夕張歴史散歩(99)

明治維新 15 / 井上角五郎と朝鮮

北炭の第五代の専務取締役として辣腕をふるった、井上角五郎と朝鮮との関係を見てみましょう。

彼は、若くしてかの福沢諭吉の書生となり、慶応義塾に入学します。卒業後は後藤象二郎の書生となります。かくして明治維新後の人々とかかわりを持っていきます。



紙 智子「国会かけある記」
参議院議員

納得できる検証が必要

ブラックアウト(全道停電)はなぜ、どのように起きたのか。避けることはできなかったのか。日本中が注目しています。二十六日、笠井亮政策委員長、岩淵友参議院議員とともに調査を行いました。島山和也前衆議院議員と真下紀子、菊池よう子、佐野弘美各道議のみなさんも参加し、北海道、北農中央会、北海道電力、道生協連を訪ね聞き取りをしました。

北海道が、北電からブラックアウトの連絡を受けたのは、何時かと聞くと、「問い合わせたのが五時三十五分だった」と言います。ブラックアウトが起きたのは三時二十五分ごろ、二時間近くの空白があります。北海道電力の側に聞くと、「社内規定は、直ちに関係機関に連絡することになっている」と言います。なぜ北海道からの問い合わせが来るまで連絡しなかったのか。「停電の規模がどれくらい規模なのかわからなかったため連絡が遅れた」などと言訳しました。電源が落ちたことを最も正確に把握できるのは、電力会社の北電しかありません。停電が市民生活にどういった影響を与えるのか。酪農をはじめ生業(なりわい)への被害を考えなかつたのでしょうか。検証委員会(電力広域的運営推進機関の第三者委員会)の中間報告は「北海道電力の対応が不適切だったとは言えない」と言います。

停電で苦しむ道民の姿が見えないものは、検証などと言えぬものではありません。道、北電、国の対応を含め道民が納得できる検証を急ぐ必要があります。